



四国にカジノを！ 「徳島カジノ研究会」誕生

社団法人クリニック積羅 院長 中西昭憲

「地域活性化へカジノ構想」鳴門市モデルに論議、県内有志が研究会「徳島新聞」の03年3月30日の記事である。

日本カジノ学会の会員である私が、文理大学総合政策学部教授・アスティとくしま館長・徳島県観光協会専務理事・徳島大学病院の生活習慣病の専門家・設計デザイナー・レストランのオーナー等各分野の専門家に呼びかけ、カジノがどのような制度や実態なのか調査し、会員相互の認識を高め、どのようなシステムが地域の活性化に相応しいのか等、意見提言が出来るような「徳島カジノ研究会」が誕生した。

当日、私のカジノ体験を交え、資料を配布し、徳島ではドイツ型のようなこじんまりとして財政的に健康保養を下支えしているようなタイプが相応しいのではないかと、すなわち新しいイメージとして「カジノ健康保養社会」とも言うべく、カジノを核とした地域社会の創成を提案し、候補地として鳴門市を選定した。

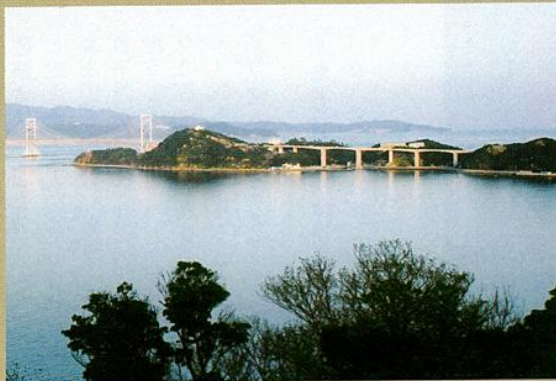
以下は私のカジノ体験と骨子提案である。

① カジノへの道(ドイツ温泉保養地バーデンバーデン体験記)

30年前、障害者の社会参加モデルとしてイギリスのケンブリッジのフルボーン病院で、精神科の「治療共同社会」という社会モデルを体験して以来、日本でのどのようなシステムが治療的・経済的に可能なのだろうか、と考えてきた。この過程で日本健康開発財団の「クアハウス」という温泉療養システムを知り、ヨーロッパへの体験ツアーに参加してドイツのバーデン・バーデン(温泉保養地のことをバーデクアオルトという)

を訪問した。

ここで初めて「クアハウス」というものが温泉施設ではなく、療養に来る人達のためにコンサートホール・レストラン・会議場やカジノがある総合施設であり、温泉施設は「クアミッテルハウス」と呼ばれ、この中に様々な温浴システムが網羅されていたのであった。さらに温泉保養地には広大な「クアパーク」があり、施設のみならず地域が一体と



四国の玄関である大鳴門橋
瀬戸内海の海岸を体験出来る遊歩道が整備されている

なっており、療養に貢献していることを知るとともに、日本の「クアハウス」を取り囲む制度の貧弱さを思い知った。この背景には日本独特の行政制度があるのであるが…。

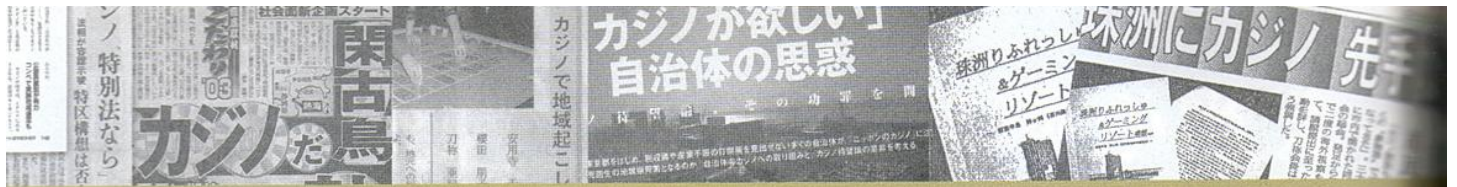
このバーデン・バーデンは、国際学会がよく開かれることでも知られている。学会の合間に公園の散歩、地方独特の料理、気の利いた広告と町並みを

楽しむことができる。この地は8年ぶり訪問であった。前回訪れた宝石店に立ち寄り、前に買った品物の説明をみると、別室に案内され数々の新作を見せてくれた。さらにカジノに立ち寄るとパスポートを調べ10年間の再来館者は入場料が免除される規則に則り、笑顔で迎えられ、故郷へ帰った思いを味わった。数日間の滞在であったが、鹿肉とワイン、温泉体験、洒落た町並みの散歩、気の利いた指輪や時計などのアクセサリと町の人となりは、また訪問したい候補地の一つになった。このようなカジノと地域が一体となって滞在者を迎えてくれた体験が、なぜ日本で出来ないのか疑問を持ち続けると同時に「カジノシステム」を勉強する切っ掛けである。

② カジノを活用した健康保養社会

ドイツの温泉療法では、自己負担も含め保険で3週間の滞在費を含む療養が認められている。温泉療法は、疾病の改善・健康増進・予防に加え、さらに温泉の効果を高める要素としてコンサートや講演会、散歩や食事とショッピングがある。このような地域の健康へと誘う総合システムの財政的基盤にカジノが貢献しているのである。ドイツは、収入の80パーセントを税金として徴収し、カジノオーナーは一種の名譽職になっている。

因みに1992年度のバーデン・バーデンでは8000万マルクの売上の内2100万マルクが温泉施設や公園整備の人員費等に還元されている。ドイツの温泉療養所の素晴らしい環境は、カジノによってもたらされたと言って



も過言ではないほどカジノが地域に貢献している。振り返って日本の「クアハウス」を訪れると田舎の片隅に設けられていることが多く、料理は不味く生活が単調で滞在に飽きてしまうことが多い。「仏作って魂入れず」である。

何とか療養が楽しくなるような温浴施設を考えているが、単独では無理で地域の活性と元気になるシステムがなければ施設の維持が難しい。ところがにわかにか지노の記事が散見するこの頃になった。

そこで徳島という大都市では、一般にカジノから連想するラスベガスのような大規模カジノはその目的と規模が合わないため、ドイツの温泉保養地のようなこじんまりと地域に密着しているカジノをモデルとして考えることにした。

③ 鳴門カジノ健康保養社会の実現に向けて

カジノ健康保養社会候補地として、観光名所として知名度が高く交通の要所、さらに周辺に適当な教育・文化施設や高度医療施設・風光明媚の地として数々の要素を含む「鳴門」を選んだ。

ここ鳴門はお遍路の出発点として「お遍路口」があり、近くには清少納言の終焉の地として「尼塚」や紀貫之の土佐日記にでてくる「土佐泊」という地名があるなど歴史的に面白い物をもっている。

また鳴門教育大学やルネッサンスホテルは、国際会議の場として活用が考えられ、近くの美術館や鳥居龍三記念館記念館はその価値と共に絶景の景色を提供してくれる。さらに鳴門健康保険病院は滞在中に高度な健康検査が受

けられる、という利便性を提供してくれる。

鳴門は変化に富んだ海岸線を持つていることから、その特質を活用するとクアパークとしてすぐにも利用できる。このような数々の要素は、充分生かされているとは思えない。しかしドイツのようにカジノ収益が直接地域の整備に使われ、カジノを核とした滞在プ



鳴門ウチノ海
内海のための年余を通じて穏やかである。釣りのメッカである

ンは、地域全体の活性化につながるものと考えられる。

ウチノ海は、字の如く内海のため海が静かである。ここに海洋療法（タラソテラピー）・イルカ療法等が開設されると全国から療法を求めて滞在するのではないかと考えられる。さらにイメージを広げると、鳴門ワカメを活用したエステや美容、勿論鳴門鯛に代表さ

れる海浜食材や徳島の野菜・果物類が新鮮で美味しい名物料理として人気を得るものと思われる。

鳴門カジノ健康保養社会の要点

- ① 四国の玄関口として大鳴門橋・高速道があり全国的に知名度がある。
- ② 後方の鳴門市としての人口があるため日々の利用が見込まれる。
- ③ 海岸に面しているため海水を活用したタラソテラピー・イルカ療法が出来る。
- ④ 海水を温めればNa⁺塩化物泉として温泉と同じ効果が得られる。
- ⑤ 鳴門の渦、阿波踊り、お遍路、尼塚、土佐泊、鳥居龍三記念館、大塚国際美術館、鳴門ウチノ海総合公園等は、滞在者にとって日々の彩りになる。
- ⑥ 鳴門教育大学、ルネッサンスホテル等は、国際学会開催の場となる。
- ⑦ 鳴門鯛、鳴門ワカメ、金時いも、レンコン、スタチ等の野菜・果実等は、地方のオリジナル料理の食材となる。
- ⑧ 鳴門健康保険病院は、滞在者に人間ドックの機能を付与することができる。
- ⑨ 吉川英治の「鳴門秘帖」、阿波の写楽等は、イラストやお土産に活用出来る。

以上の要素を組み合わせる活用することによって魅力有る地域に生まれ変わる可能性があり、これらを生かす促進剤としてカジノとその収益が役立つものと考えられる。今後より具体的な候補地を鳴門地区の中で絞り込み熟度を高めることにしている。

折も折、奥田碩（日経連）会長が「沖縄と四国にカジノを」という誠に有難い発言を洩れ聞き、小躍りして徳島カジノ実現を夢みる今日この頃である。